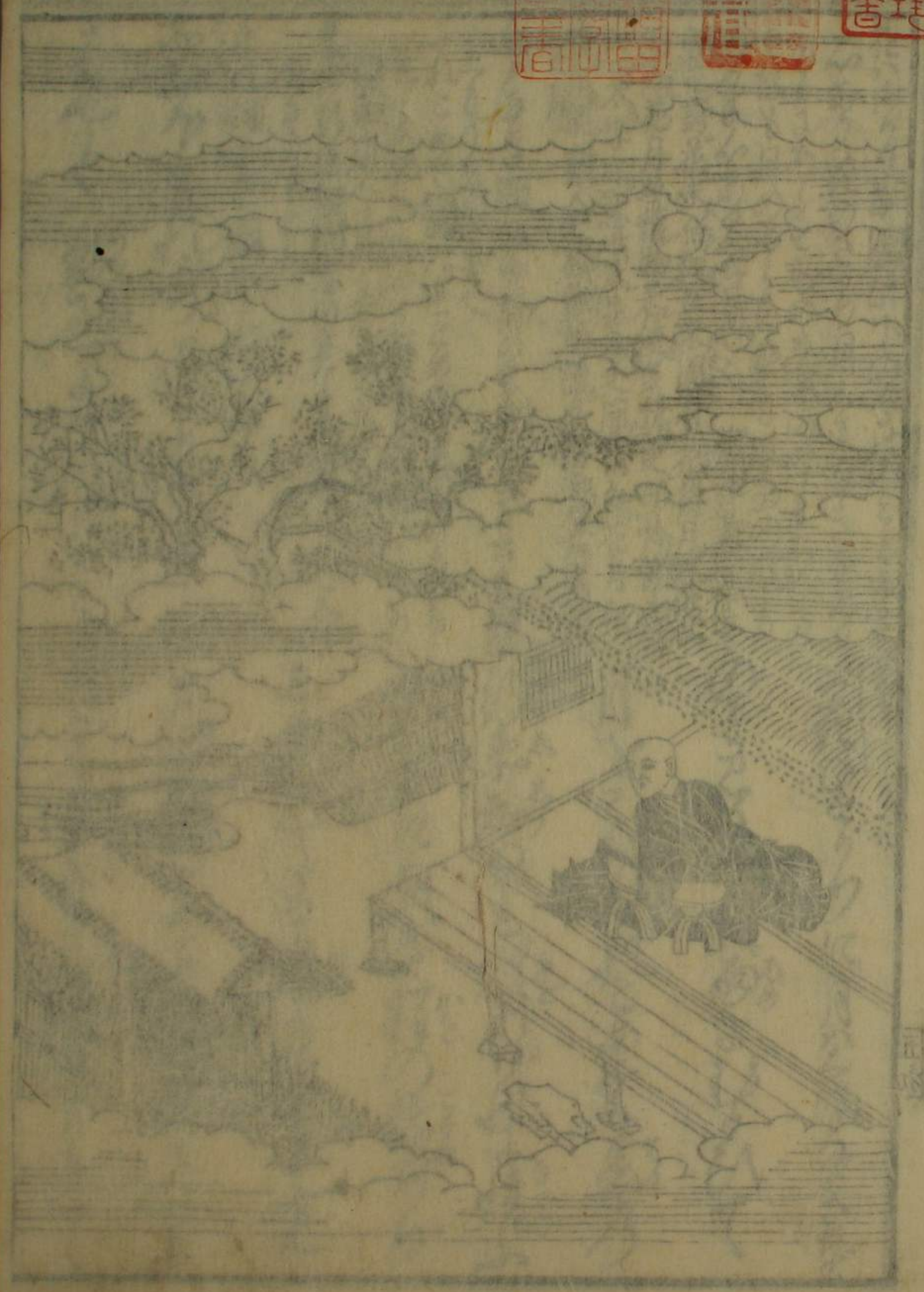


特  
利10  
2262  
5





Three red square seals in the top left corner of the left page. The rightmost seal contains the characters '蘇州' (Suzhou) and '印' (Seal). The middle seal contains '蘇州' and '書' (Book). The leftmost seal contains '蘇州' and '畫' (Painting).



A red rectangular stamp in the top right corner of the right page. It contains the characters '利' (Li) and '10' in the top right corner, and the number '2262' in the center, with a small character '子' (Zi) below it.





花はゆくり母 **野** け下の白れのこころを

心あり花のさくら月くらがるまを  
 のこまあるをむの未開の時もあはる  
 てはも月のさくられ来も風の暁も  
 探花詩花味全用月未開看花待月思依然  
 明知花月無情物若使多情更可怜蒙  
 云二未字有意此是花月之無情也花月無  
 情能動人之感觸所謂多情却放無情惱  
 之意

くまあるを **野** 河海三向の字曲の字とさう **思** 開

ふれこめて **野** たまこめてまのめ来も  
 云くぬまのよけし様もうつろひまら  
**思** 開 箱入うさげをてと云来  
 まのめ来 **思** 開 春のまてまの時もさ  
 ぬまのよけし

ふれ **野** 野の小亭へ

おあやうれ **野** 乃こといなきに  
 も。花かよふりまてあはる母  
 もやく **野** 数ふまなれどもささる事  
 ありてまらうて

花はさうりに。月は海をささる

のこころ抱りあまひひいて

月とこひふれあてま乃

ゆくま **野** ぬまも枝あられま情あ

り。されぬま **野** 影の枝あ

ま **野** きてる **野** 庭あてて見



思明 さきつげはるるこありて

花のちり 思明いよ揚りれもちりるん一盤

ありき人 いよきめん

うきよ いよきめん

思明 うきよ

野 思明

男女 思明

いふ 思明

あつち 思明

花のちり 思明

ありき人 思明

うきよ 思明

思明 うきよ

野 思明

男女 思明

いふ 思明

思

あつち 思明 さきつげはるるこありて  
花のちり 思明 いよ揚りれもちりるん一盤  
ありき人 いよきめん  
うきよ いよきめん  
思明 うきよ  
野 思明  
男女 思明  
いふ 思明  
あつち 思明  
花のちり 思明  
ありき人 思明  
うきよ 思明  
思明 うきよ  
野 思明  
男女 思明  
いふ 思明

思明 うきよ

花のちり 思明

ありき人 思明

うきよ 思明

思明 うきよ

野 思明

男女 思明

いふ 思明

あつち 思明

花のちり 思明

ありき人 思明

うきよ 思明

思明 うきよ

あつち 思明  
花のちり 思明  
ありき人 思明  
うきよ 思明  
思明 うきよ  
野 思明  
男女 思明  
いふ 思明  
あつち 思明  
花のちり 思明  
ありき人 思明  
うきよ 思明  
思明 うきよ  
野 思明  
男女 思明  
いふ 思明



















高祖幸其門曰先生此佳所也高曰臣泉名  
膏肓解靈瘡疾

是をよそにまくとくわくわくといふは山のおく

まをのりてはさびひきこつてはるんやを死のうめる

軍此陣まをめるまおれ

まうり 國い隆のまも松茂のまも日人く

あひひくらの漫まかるく松茂松尾の松

司ま人の日よつてまきまきあくまの月

中の酒の目ふま根はまのり又法

ま真まあひまのりゆへは榮耀のま

あひまのりまのりまのりまのりまのり

周防内侍 周防守 雄仲り女 後冷泉院の  
女房 愚明 大系圖 白河院の女房とあり

人乃志終まをられいさるん

まうりやと思ひりて 周防内侍のまをられいさるん

みまの葵乃かれむぬりり。まあるも母屋のませり

あひひのりり方うれはまあるは家の集にけ案。

あつまこれとまがれ 新古今にまをり

あつまこれとまがれ 新古今にまをり

あつまこれとまがれ 新古今にまをり

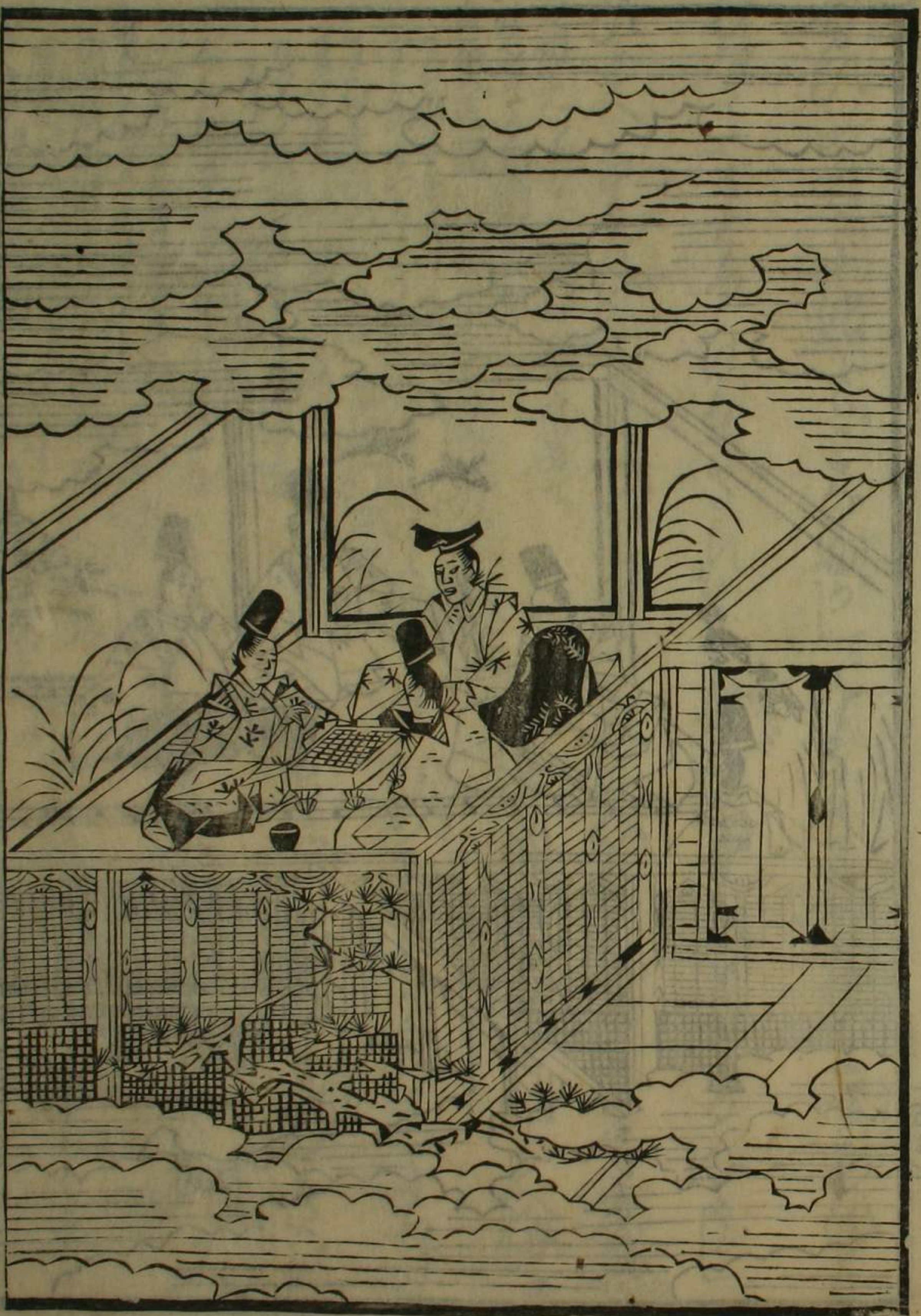
あつまこれとまがれ 新古今にまをり

あつまこれとまがれ 新古今にまをり





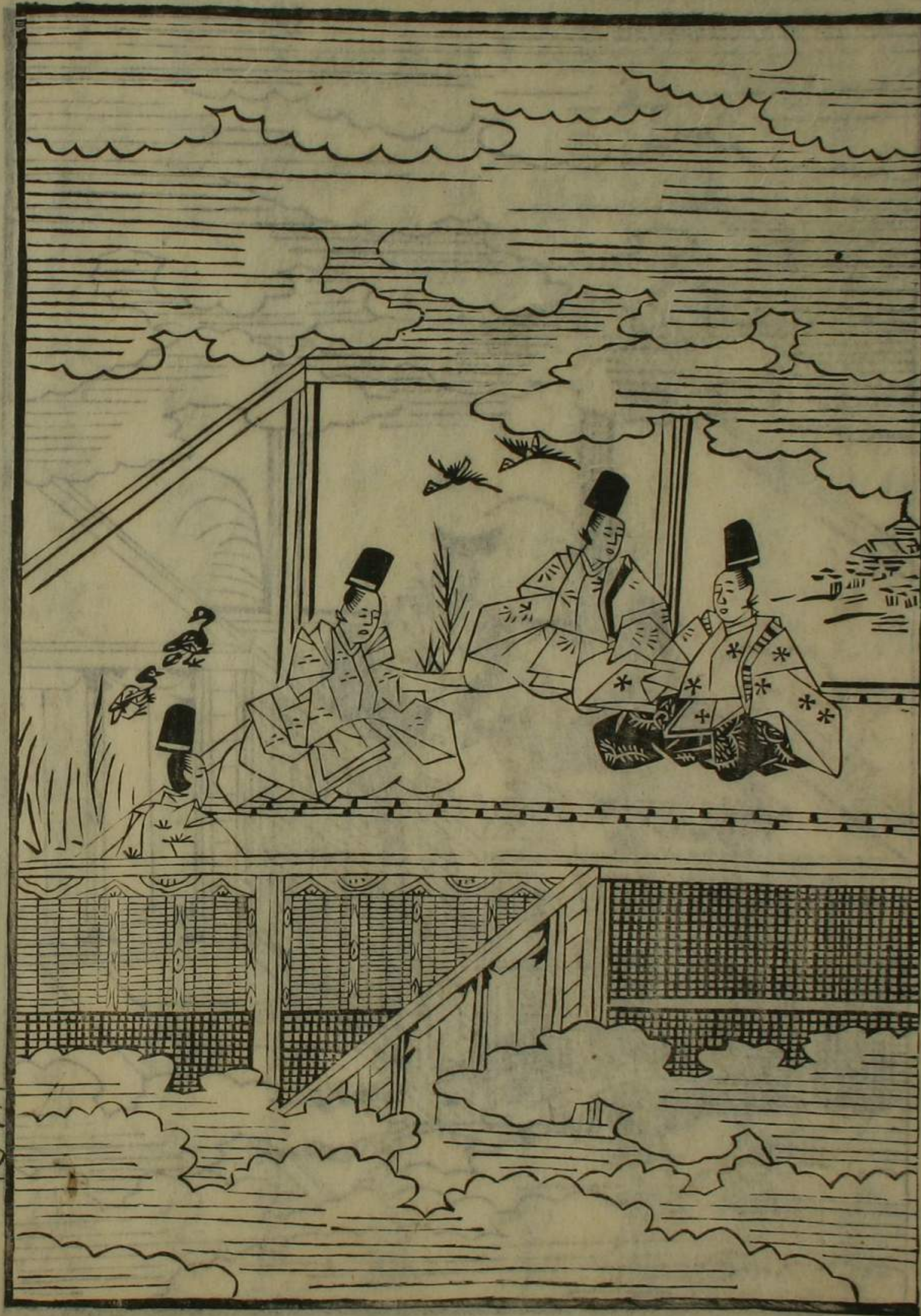




起野のた野古今春のあたるは  
 山の梅の人磨うんよのあしうこのこま  
 左近のさくら野肉裏よ近の梅をよの  
 櫛あり  
 ことやう異風所  
 物ちけこちう  
 ぼきかあきさき万葉るう  
 かひの二ありしてさあもかあも  
 こらう  
 山櫻抱石映松枝比並餘花  
 春風嫌寐冥吹香渡水報人知  
 梅枕の部よ入り  
 暈き梅野東坡詩二月驚梅  
 出のつきさるるもむつう  
 梅のあつさ  
 うそね梅ひとるるがさ  
 笑るるさるるりころ紅梅の  
 乃抄ありとこらう  
 とうあき八き携へとやう  
 乃抄ありとこらう  
 とうあき八き携へとやう  
 乃抄ありとこらう  
 とうあき八き携へとやう

ぶらり





白みひめてくたも。さかおし。なうさ梅うめの標しるしは咲あひく

おろしとちけをされ。枝えだもがとつまうらんじ。

ひと人ひとあるが先まへさたてちり。さる心こころとておしとて。京きやう極ごく

お月おつきえととら。恩おん誦じゆ 芝しば之の芳よし之の

けさるる。恩おん誦じゆ 芝しば之の芳よし之の

京極入道きやうごくにゅうだう 風雅集ふうがしゆ 十五定家じふごじやうけ 竹やうはみ

なるまよまをい。立たてて。か。い。人ひと。作しやう。り。なる。お

まかのさうり。うへて。作しやう。り。なる。梅うめの本ほん。枝えだ

よむ。と。ひ。つ。け。う。梅うめ。後ご。院いん。内うち。作しやう

日ひ。す。ま。う。ち。作しやう。り。む。り。は。梅うめ。の。う。へ

う。う。ぬ。梅うめ。前まへ。大だい。物ぶつ。云い。ふ。世よ

さ。ら。梅うめ。の。う。へ。さ。梅うめ。の。梅うめ。う。え。も

又また。さ。ら。う。へ。さ。梅うめ。の。梅うめ。う。え。も

卯月うづき。の。う。へ。さ。梅うめ。の。梅うめ。う。え。も

霜葉しもは。紅べに。花はな。二ふた。月つき。花はな。の。う。へ。さ。梅うめ。の。梅うめ。う。え。も

勝かち。花はな。の。う。へ。さ。梅うめ。の。梅うめ。う。え。も

め。く。さ。ら。う。へ。さ。梅うめ。の。梅うめ。う。え。も

入道中納言にゅうだうちゆうなごん 云い。ふ。さ。ひ。と。人ひと。梅うめ。を

かん。物もの。ち。う。く。う。へ。さ。梅うめ。の。梅うめ。う。え。も

さ。ら。梅うめ。の。梅うめ。の。南みなみ。む。さ。に

今いま。も。二ふた。本ほん。作しやう。り。あり。梅うめ。又また

お。う。卯月うづき。の。う。へ。さ。梅うめ。の。梅うめ。う。え。も











いさよはあつとこの月より  
さきよりうらぬ人のこと  
かいとさうぬこと  
愚明

利見とい思ふほど  
貪うるもの  
人のとあまのづからい

とをらぬおぼるべし。あつたふら  
のむら。懐きられびと  
めより。いさよのひくや  
のまらし。どうと。さ  
ゆくと愚明  
こゆやく愚明  
あつたと思ひ

後心ありありておける中に  
かくやりたりるさ  
かき

心ありとありありの  
子一言  
左傳  
叔聖者  
萬也  
失子矣  
有失  
愚明  
南  
禮記  
三百  
夷之子也

















梅尾のよ人 劔明慧上人の事

野高辨 百四十四

梅と梅とがかりの梅と木母と名付

梅尾のよ人 名とよ給なる

名は我謹の事とつづり 岷峨集

よ河そ馬あふまのこあ

元亨秋書五秋高辨姓平氏紀列在田郡

くといひされい上人立とあり

人父者重國尊為嘉應帝衛其曹九歳從高

てあなうとや 音執并愛

尾山上覚讀俱合領十九從真然 眞宗

乃人うあ何字くこととあり

密法自尔此山梅尾盛唱賢首宗寛喜

ぞやいある人の内をそ能

四年正月十九日唱跡動号而宋年卒

ううくおああるいと

宿禰開發の人 劔前生うて修練する

たれが府生後の内馬に

府生後國職原下云左右近衛府府生大將判授

たれが府生後の内馬に

之大御云大將不立社府生大將以上在加

たれが府生後の内馬に

府生也又左右衛門左右兵衛うし皆府生あり

たれが府生後の内馬に

阿字本不生 眞言宗秘傳の密觀之大毘盧

たれが府生後の内馬に

舎那經有情及非情阿字第一命又云我

たれが府生後の内馬に

覺亦不生 新羅國靈妙寺僧不可思議

たれが府生後の内馬に

釈云秘密中秘教者阿字自説本不生

たれが府生後の内馬に

眞言之諸經中阿字第一命炳現阿字諸

たれが府生後の内馬に



法本不生我学本不生といわれし阿字本  
不生と連讀する文ありと未の阿の釈  
るにいはるる阿字一釈するに阿字は  
不生の義もさるる阿字一釈するに阿字は  
不生の義もさるる阿字一釈するに阿字は  
不生の義もさるる阿字一釈するに阿字は  
不生の義もさるる阿字一釈するに阿字は  
不生の義もさるる阿字一釈するに阿字は  
不生の義もさるる阿字一釈するに阿字は  
不生の義もさるる阿字一釈するに阿字は

阿字と空府生と不生と空府生と不生と  
の身感應のいふこと  
沙弥牙秦重朝恩明中府の隨身之天  
子より被下故は沙の字と付るに  
師艾文選藉由賦龍驥騰驤而沛艾  
馬行貞  
け相とわらうと付るに師氏相と義やまといふ  
をいふに會課討之計之稅之程之  
いつらやあやまりするに師何の字といふに  
ういふに  
莊子達生篇東野稷以御見莊子進退中繩  
左右旋中規莊公以為文弗過也使之鈞  
百而及癩圍遇之入見曰稷之馬將

と答たり。このあててこたえと  
る。阿字本不生にうあ  
る。嬉笑強縁とも志つる  
り。あてて感後と持つるを  
下野入道伝教を落馬乃  
相ある人あり。能くはくしと  
はてといひる。はと海に

敗公密而不應少馬果敗而及公曰子何必  
知之曰其馬力竭矣而猶求焉故曰敗  
家語魯定公問於顏回曰子亦聞東冶珉之善御  
乎對曰善則善矣雖然其馬將必逸公不悅其後  
三月東冶珉之馬逸公聞之促駕召顏回之  
至公曰前日宣察人向吾子以東冶珉之御而子  
曰其馬將逸不識吾子奚以知之顏回對曰以政  
知之而已矣昔者帝舜巧於使民而造父巧於  
使馬舜不窮其民力造父不窮其馬力是以前  
無逸民造父無逸馬今東冶珉之御也歷  
我遠馬力盡然而其心猶求焉不已臣以此  
知之公曰善哉吾子之信其義大矣顏回進  
顏回曰臣聞之鳥窮則嘯獸窮則攫人窮則  
馬窮則逸自古及今未有窮其下而能無危  
者也公悅釋治要十  
明雲曰我本政木臣雅實公孫顯通子  
也山門の在也  
前よりあててういふに阿字一釈するに阿字は  
不生の義もさるる阿字一釈するに阿字は  
不生の義もさるる阿字一釈するに阿字は  
不生の義もさるる阿字一釈するに阿字は  
不生の義もさるる阿字一釈するに阿字は  
不生の義もさるる阿字一釈するに阿字は  
不生の義もさるる阿字一釈するに阿字は  
不生の義もさるる阿字一釈するに阿字は

をを好むにびおをわかせ  
ゆりき。いつらやあやまりするに  
ういふに。







徳を以てかん 鈔 藝能を稽古あまふよわる

うりく 鈔 月こ

百五十 徳を以てんとする人ぞくせ

ごらん 狂ひる海ひよ人よあま ちりくよまきひいて

さうせ せん せん せん せん せん せん せん せん せん せん

く子人 一藝もあつるまほ 堅固うらまらるる

つらうす 強面強教 せめてづく 子の中まま せせ

天性 骨 鈔 生れつるれ 用こ 徳能 藝能 入る 用こ 義者 要こ

性その骨 骨 せせ なる づま せせ せせ せせ せせ せせ

性その骨 骨 せせ なる づま せせ せせ せせ せせ せせ

又これ

を せせ 徳能 の なる 海 ざる あり づら あり 子 の 位

徳能 鈔 徳能 の 長 なる 不徳 鈔 徳能 の 義 なる 用 なる 義

て 双 なる なる なる 天下 の 物 の なる なる なる なる

不徳 の なる なる なる なる なる なる なる なる なる なる

及 の 徳 なる なる なる なる なる なる なる なる なる なる

道 の 徳 なる なる なる なる なる なる なる なる なる なる

世 の 徳 なる なる なる なる なる なる なる なる なる なる

畏 罵 知 来 者 之 不 如 今 也 四 十 五 十 而 無 所 見 或 人 の いたく 年 六十 には 徳

斯 亦 不 足 畏 也 已 野 太 戴 社 修 身 篇 曾 子 曰



年三十四之間而無藝則與藝矣五十而不  
以善聞則不辭矣七十而未壞雖有微過亦可  
以死矣

棄あきらへまきこ。そのけこおのりこ。まのちのあらははじのまのといふも

えのりらうりのまのまりりらうのあいわくたるや。たうこ

方乃志ありさいやその勝あらう。めあらうくあらうゆりたれ。

世俗せのこらまのまりらうて。生なまいをうらひたるあの人也。

ゆりくおかえんといひ鈔を藝のゆりく  
思ふるゆりく  
おのつりらうすて鈔不慮さえいわど  
あらうすならう  
ゆりくおかえんといひ學のまき  
おのつりらうすて鈔け結つ殊修といふも。その藝をあらうらはお月

つらうらうらうてあらはじへし。もとまのうらむ事ならして。

又のうら







やまのしづみののりあや

西大寺の勢と人勝り

まの眉あろく誠よとく

ふけらるる振とて内裏へ

まのしづみののりあや

内大寺の勢と人勝り

まの眉あろく誠よとく

ふけらるる振とて内裏へ

まのしづみののりあや

西大寺 鈔 天平元年 稱徳帝 建鑄 四天玉銅像  
 長七尺 野 大和國 あり七丈ものより拾  
 芥云 高野 天皇 天平勝寶元年 創之 至天平  
 神護元年 十七年 造畢 かりきこと 八續日  
 本紀より

西園寺内大臣 實衡公之左府公衡公の男  
 又竹林院と号す  
 資朝卿 鈔 權中納言 從三位 檢非違使 別當 後  
 醍醐 天皇の時の人 日野 俊光 卿の三男  
 年のよりなるより 圓明 何れ 殊務ともく 只  
 年のよりなるより 一巻との 義と  
 老ありて 鈔 莊子に 饒の 子と ありて 只  
 と あり

まのしづみののりあや  
 年のよりなるより 一巻との 義と  
 老ありて 鈔 莊子に 饒の 子と ありて 只  
 と あり







ふのこていふやうにきくやう曲折まがをよめて目をよるこじ

めつるい。はるるいものさきするこらと。真るくおら

くれい。神スラは極えんらきくる本との踏かりいさるるれりあ。

いさるく思明むごく

折野山あり

ことありぬきこるあり。

機嫌シをきりわていふ又機といあ何十五おらきるらん人の先機きん

きりひらることを云く野機嫌の二字佛也

取あひらく野漢書張良傳忠言逆

病放身をけり子さうと死わる鈔けり二のよ人の身はひさるひんあ

よけりさるる産死の二案の機嫌

たぐひてぞもさるるいさるる乃おらきとぬあはは又但又病

みね

なうけ。子うと。死わるるもの機嫌をさるるいづめてあ

生位異滅カサチを法教カサチ日相カサチは機嫌カサチ

生位カサチ死位カサチの四相カサチ生位異滅カサチのカサチ

四相カサチ生位カサチ死位カサチの四相カサチ生位異滅カサチ

老才カサチさるる異い病をさるるいカサチのうらわりのまことの大事

たけカサチの野カサチ海カサチ子カサチ罕カサチ子カサチ在カサチ川カサチ上カサチ日カサチ遊カサチ

者カサチ斯カサチ夫カサチ不カサチ空カサチ書カサチ夜カサチ程カサチ子カサチ見カサチ此カサチ道カサチ体カサチ也カサチ天カサチ運カサチ而カサチ

不カサチ已カサチ日カサチ性カサチ則カサチ月カサチ未カサチ実カサチ性カサチ則カサチ暑カサチ未カサチ水カサチ流カサチ而カサチ不カサチ息カサチ

物カサチ生カサチ而カサチ不カサチ窮カサチ皆カサチ与カサチ道カサチ為カサチ体カサチ運カサチ平カサチ晝カサチ夜カサチ未カサチ嘗カサチ

真俗カサチ野カサチ出カサチ世カサチ間カサチ俗カサチ世カサチ俗カサチる

ら正カサチだカサチちカサチおカサチこカサチらカサチひカサチゆカサチくカサチものカサチさカサチれカサチいカサチまカサチ俗カサチまカサチつカサチけカサチく

必カサチさカサチるカサチしカサチとカサチけんカサチと思カサチりカサチんカサチとカサチ機カサチ嫌カサチをカサチいカサチふカサチらカサチるカサチ乃

春カサチなカサチれカサチてカサチ野カサチ六カサチ韜カサチ云カサチ春カサチ道カサチ生カサチ万カサチ物カサチ機カサチ復カサチ道カサチ

長カサチ万カサチ物カサチ機カサチ道カサチ欽カサチ万カサチ物カサチ機カサチ道カサチ機カサチ万カサチ物カサチ静カサチ

風カサチ罰カサチ機カサチ則カサチ機カサチ起カサチ真カサチ知カサチ所カサチ終カサチ真カサチ知カサチ所カサチ始カサチ











ちも。繩糸ヒキは生なませい。おろえよりて。禪定ぜんぢやうへ。事理じり

率亦野論語注率亦輕遠之見  
繩糸ヒキ坐ま禪ぜん王わうの糸イト之ノ繩ヒキ之ノ儀儀よりて。事理じり

倚繩床讀懷素  
禪定ぜんぢやうの定ぢやうよりて。事理じり

思明人の定よりて  
思明しめいの定ぢやうよりて。事理じり

肯内證必熟と云も  
肯内けんない證ぢやう必かならず熟じやくと云も。事理じり

或人の定よりて  
或人あるひとの定ぢやうよりて。事理じり

禪當野韻會當丁浪及底也  
禪當ぜんたう野の韻會いんかい當たう丁浪ていろう及及び底てい也也

魚道同魚の同一をさぐるゆへ  
魚道ぎよだう同どう魚ぎよの同どう一いつをさぐるゆへ。事理じり

あし

集しゆ云いふ魚道ぎよだう建たて發はつ益えき也也。以もつ餘あま澁しやく法ぽう血けつ痕こん喻よ之ノ  
魚道ぎよだう建たて發はつ益えき也也。以もつ餘あま澁しやく法ぽう血けつ痕こん喻よ之ノ  
忘わす旧きう道だう者しや身み又また出で所しよ未ま詳じやう也也

るあやゆんあやゆんとやゆゆええ。さたさたいあいあはは魚ぎよ為なるるりり。流りゅう

よあよあして。口くちののははささららああををささぐぐ也也とて。修しゆれれ

みかひとひとのひ  
みかひみかひとひとひとのひとのひ。公こう家けのの表ひょう禪ぜん或あるハハ修しゆれれ

和名集云崔禹錫食經云河身子  
和名わな集しゆ云いふ崔さい禹う錫しやく食じき經きやう云いふ河か身み子し

俗用蝶字非也音奉  
俗用じやく蝶てつ字じ非ひ也也音おん奉ほう

空からる  
空くうからるからる。大だい後ご上じやう實じやく教きやう公こうのの体たいよりよりなりなり

小野宮関白清慎公の事  
小野おの宮みや関せき白はく清せい慎しん公こうのの事こと







大ひのりあけされぬ教もあつた入りのりなる後よのま  
 もりのていそこあてさうはくこあけつよそ目ひおと  
 ろくく穿くなるを兼るまうひきて人まをたれか  
 村のおのこをおらつて入てらるま大なるあこあ  
 つ中よ法師まうまそつらあせ移りあつたれば  
 法師をとて入てあまの使魔へ出つらるあまを  
 のちをくひひをさるまて林を越せまはるあ基俊大納  
 使魔カシマ 檢非違使ケンビワイシ 歴也レキヤ 別當ワケタウ あり 職原シヨクハラ あり  
 基俊モトシ 鈔シヨウ 久我クガ の一門イツモン 基具モトツ の三男サンナウ へ  
 玄ヘン 別當ワケタウ の時トキ 又マタ 入イ たり

ふのり終



